

I 経営の重点に関わること 評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
すぎがいっぱいこども園	” おもしろい ” たのしい ” をみつけよう つながよう	自分で遊びに必要な物や場所等を選び、工夫したり試したりしながら、繰り返し遊んでいる	自分たちで好きな遊びを見つけて、遊びの場を作ったり、様々な素材を準備しておくことで、子どもたちが自由に選んで使い、その中で考えたり工夫したりして遊ぶ姿が見られるようになってきている。しかし、自分で考えたり試したりすることが苦手な子もあり、できないとあきらめてしまう姿も見られている。子どもの興味関心に合わせた環境の準備を行えるよう、保育者間で素材や教具などの教材研究を行ったり、子どもたちと遊びの振り返りを行ったりし、自分たちで工夫したり試したりしながら繰り返し遊びを楽しめるようにしていきたい。	B	A	・子どもが自分たちで好きな遊びを見つけられるのは、すばらしいこと	・園庭の環境図に、それぞれのクラスの遊びの様子を付箋に書いて出し合う取り組みを3学期から始めたため、今後続けていくことで、自分の学年だけでなく園全体の子どもの遊びの様子について共有していくようにしたい
		遊びの中で相談したり、話し合ったりしながら、一緒に遊びを楽しんでいる	気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、お互いの思いを伝え合いながらイメージを共有し、遊びを楽しむ姿や、他クラスの友達の遊びを真似たり、やりとりを楽しんだりする姿も見られるようになってきている。一方で、自分の思いを表現することが苦手な子や、自分の思いを通そうとする姿も見られているため、保育者が丁寧に話を聞き、また、聞いてもらう経験を積み重ねたり、思いが行き違った時にはどうしたらよいかを一緒に考えたりしていきたい。	B	B	・子どもの発達や興味に合った環境が様々な工夫され、用意されていることで、子どもも主体でありながら、つけたい力の育成に自然に誘うことができている	
		子どもたちが「おもしろい」「たのしい」と思えるような環境となるように、職員間で手立てを意識した振り返りを行っている	園内研修の中で、保育についての悩みやわからないことなどを話し合ったり、環境図を用いて園庭での遊びを共有しアイデアを出し合ったりしたことで、子どもたちの「おもしろい」「たのしい」を捉え、次の遊びにつなげることができるようになってきている。一方で、実践に移すまでの話し合いや準備などに、クラスや学年によって差があるため、会議時に遊びについて語り合う時間や、教材研究についての時間を意図的に作るようにし、学びを深められるようにしていきたい。	B	A	・子どもの興味関心に合わせた環境を準備するために、職員間でタイムリーに話し合うことが難しいとのことだが、どのような工夫をしているのか	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	0～5歳までの発達や興味関心に合わせた遊びを用意し、保育を行っている	それぞれのクラス、学年で、子どもの姿や発達、その遊びのどこに興味を持っているのかを捉え、環境の準備や再構成を行っている。しかし、他学年の遊びの様子が見えにくいという課題があるため、今後、園内研修等でそれぞれの学年の子どもの様子や遊びについて共有し、異年齢のつながりを充実させていきたい。	A	A	・異年齢での学びはとても大事なので、関わりをしかける時があってもいいのではないか	・会議や園内研修の時に、それぞれの学年の子どもの様子や遊びについて話し合う時間を作り、異年齢のつながりについて考えていく ・園庭環境図を用いて、職員間で、どんな環境になるとよいか、どんなものを準備したらよいか等、考えていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人が安心して生活できるように、応答的な関わりを意識し、それぞれの家庭状況に合わせた保育を行っている	各家庭の状況や子どもの姿に合わせた関わりをし、一人ひとりが安心して過ごせるように意識しているが、長時間保育の子も多く、保護者との細やかなやりとりが難しかったり、子どもたちの遊びがマンネリ化してしまったりすることがある。職員間で、連絡事項の伝達を確実にしたり、年齢や興味に応じた玩具の見直しを2か月に1度行ったりする等していきたい。	A	A	・環境について、保育案の中に各クラス書いていると思うが、園庭図を使って全体で捉えることがよい。写真が入ると、よりわかりやすくなるのではないか	
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたちが自分で「気づく」「考える」「試す」等、工夫できるような環境が用意されている	子どもたちの興味や関心に合わせた身近な素材や教材（どんぐり、落ち葉、松ぼっくりなど）を自由に使うことが出来るような環境を意識したことで、自分で「気づく」「考える」「試す」等の姿が増えてきている。一方で、失敗するとすぐにあきらめたり、保育者に助けを求めたりする子もいる為、「気づく」「考える」「試す」姿になるためにはどうすればよいかを遊び地図を使って会議を行っていき、どのような環境がよいのかを話し合い準備していくようにしていきたい。	A	A	・‘おもちゃ’ではなく、自由に見立てられるものを準備していることがよい	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した訓練を実施し、園児が自分の身を守るような指導を行っている	様々な災害を想定した訓練を繰り返し行う中で、減災の考え方を取り入れ、パターン化してしまっている想定や避難方法を見直し、状況に応じた避難経路を考えたり、訓練の際に出た課題を話し合ったりしてきたことで、災害に対する意識が高まり、子どもたちも落ち着いて避難することが身についてきている。一方で、訓練の中で出てきた課題を自分のクラスに置き換えて考えたり、改善策を次月に活かしたりすることがまだ不十分である。自分で考えて行動できるように、今後も突発的な訓練を実施し、気づきや課題を書面にし、会議や打ち合わせで全職員に共有していきたい。	A	A	・災害時のトイレの対応はどうか	・簡易トイレが2基しかなく、人数を考えると十分ではないため、今後数を増やす等検討する ・状況に応じ自分で考えて行動できるよう、突発的な訓練を実施し、課題を全職員で共有していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	毎月30日にはポスターを掲示し「よく噛んで食べる」（カミング30）を子どもたちが意識できるようにしていく	毎月の食育の集いの際に、栄養士と協力し、クイズや劇などを取り入れて子どもたちに噛むことの大切さを伝えてきたことで、噛む回数を意識しながら食べる姿が見られるようになってきている。また、玄関の食育コーナーの掲示物も親子でよく見ている。乳児組は、食べ物を口にためてしまった、好き嫌いの個人差も見られたりする為、家庭にも噛むことの大切さや食べることの楽しさ等を引き続き発信し、一緒に取り組んでいきたい。	A	A	・給食を作る匂いがしてきたり、温かいものが食べられたり、それを五感で感じられることが、園内で給食が作られているよさですね	・食育の会、おたより、玄関の掲示などを通して、家庭にも噛むことの大切さや食べることの楽しさ等を伝えながら、一緒に取り組んでいく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ケース会議や特別支援研修を通し、一人一人に合った支援方法を共有し、同じ手立てで関わる	支援担当職員が、一人一人の発達や興味関心に合わせたサポートプランを作成したり、少人数の集団で運動遊びや散歩、製作活動などを行う「きりんの会」を実施したりし、その姿について話し合うことで、支援方法を検討、共有することができた。また、具体的な子どもの表れを話し合う場に様々な職員に参加してもらうことで、新たなアイデアや支援方法について話し合うことができた。一方で、全職員が同じ手立てで関わるのが難しかった為、姿や表れ、対応方法について、誰が見てもわかるような表を作成し、誰もが同じ手立てで関われるようにしていきたい。	A	A	・一人ひとりの実態に合わせたサポートプランの作成や支援はとても大事で、幼児期に園でやってきたことは小学校の中でも活かしている ・子どもとの関わり方や、保護者支援など難しくなっている為、保育教諭の精神状態が心配になる	・子どもの表れや対応方法について、誰が見ても分かるような表を作成する等し、職員が同じ手立てで関わるができるようにしていく ・支援方法や保護者対応などについて、支援担当で話し合いの機会を持ち、相談し合ったり共に考えたりしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌の役割を明確にし、職員間でスムーズな情報伝達、共有ができるようにする	分掌ごと年間計画に沿って活動を進め、必要に応じて会議や昼の打ち合わせで報告をし情報共有をしているが、他分掌の活動の進捗状況や、全職員への周知が十分でないことがある。今後、各分掌の進捗状況がわかるような表の作成や、昼打ちファイルを活用した伝達を行うなど、話し合いに参加しない職員への伝達方法を工夫していきたい。	B	B		・分掌の進捗状況がわかるような表を作成し、会議時に定期的に報告し合うようにしていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修主任を中心に、研修体制を整え「おもしろい」「たのしい」がつながっていく環境となるように、手立てを共通理解し、実践していく	多くの職員が研修に参加できるように、昼の時間帯に研修を行ったり、話し合った内容を掲示したりすることで、「おもしろい」「たのしい」がつながっていく環境を意識した保育を行うことができるようになってきている。しかし、公開保育や園内研修で出てきた学びや課題を、自身の保育に活かしていくことが十分でない為、一人一人が課題を自分事として捉え、保育に取り入れれたり改善したりすることができるような話し合いの方法を考えていきたい。	A	A	・日々忙しい中、時間を作って研修をしている為、職員が‘学んでよかった’と思えるような楽しいものになるとよい。提案を用意するばかりでは大変なので、講師を招く等、無理のない範囲でやれるとよいですね	・研修の学びを自分の保育に活かしていけるように、職員が自ら学びたいと思えるような研修の持ち方を工夫していく ・昼の打ち合わせ後の時間を活用する等、時間を作り出す工夫をしながら、子どもの遊びの様子について職員間で共有し、環境の準備につなげていく
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	園内環境について月、週1回（学年、全体）話し合いを行い、朝の遊びだしの準備ができている	クラス、学年で話し合いを行い、子どもの興味や季節に合わせた環境の準備や、朝の遊び出しの準備ができてつある。一方で早番、遅番などの番が多いため、他学年の遊びの様子や、今どんなことを楽しんでいるのかを話し合う時間を作ることが、難しい時もある。昼の打ち合わせ後の時間を使うなど工夫していき、子どもたちが、今楽しんでいる遊びのどこにおもしろさを感じているのかを職員間で共有し、朝の遊び出しの準備をしていきたい。	B	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもたちの、生活や遊びが見えるような写真を使ったポートフォリオを玄関等に掲示し、成長の喜びを共有できる関係となっている	日々の遊びや行事の様子を、文字と写真を使って全学年アプリで配信するようになり、玄関ボードの掲示を見落としていた家庭にも伝わるようになってきている。アプリと玄関掲示の両方を行うことで、子どもと話しながら見ていく家庭もある。しかし、送迎時は忙しかったり、駐車場の混雑状況によって確認できない場合もあるため、今後も、アプリを上手に活用しながら、それぞれの家庭に応じた対応を意識し、口頭でも伝える等して、情報共有ができるようにしていきたい。	A	A	・長時間の保育や、様々な家庭への配慮等、園はよく対応してくれていると思う。保護者との連携にアプリを上手に活用していくとよいですね	・子どもの様子や連絡事項等、アプリを活用し発信していく ・アプリだけでなく、口頭でのコミュニケーションも大事にしながら、それぞれの家庭に応じた対応をしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園や近隣校と公開保育、公開授業を実施する中で、情報交換、共有を図る	他園、他校の公開保育や公開授業に参加したり、自園の公開保育に来てもらったりする中で、情報交換をする機会をもつことができた。また、園児の小学校の施設利用（校庭、トイレなど）や小学2年生が園にインタビューに来るなどの交流をもつことができた。今後も、散歩等で学校の施設を利用させてもらったり、スタート、アプローチカリキュラムについても一緒に考えていけたらと思う。	B	B	・園では、10の姿、小学校への接続を意識してよく取り組んでいると思う。これを、保護者や地域、社会の理解へと広げていけるとよいと思う	・年長児だけでなく、散歩などで積極的に学校の施設を利用させてもらう ・職員同士の情報交換や、交流を行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	近隣施設（公園、神社等）に散歩に出かけ、地域の資源を教育保育に活かしている	近隣の公園や神社に出かけ、拾ってきた落ち葉やドングリなどの自然物を遊びの中に取り入れたり、お散歩マップを作成し、地域にどんな場所があるのかを、職員間で共有できるようにしている。秋すぎから園外へ出かける機会が増えてきているが、まだ知らない場所も多いため、今後、お散歩マップの書き込みを増やしていき、職員間で情報共有をしたり、他学年と連携を図り、見通しを持った園外保育計画を立て実践していきたい。	A	A	・お散歩マップを地域にも知らせてほしい	・お散歩マップの書き込みを増やし、活用していく ・週案や月案に、散歩の計画を盛り込んでいく